

第 10 回アジア地域ファンド・パスポート合同委員会バーチャル会合 2021 年 10 月 29 日

アジア地域ファンド・パスポート(以下、パスポート)合同委員会(以下、JC)は、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)による渡航・集会の制限およびこれに対する懸念のため、2021 年 10 月 29 日、バーチャル形式で第 10 回の会合を開催した。会合は韓国金融委員会(以下、FSC)と韓国金融監督院(以下、FSS)が議長として主催し、オーストラリア、日本(副議長)、ニュージーランド、タイの代表者が出席した。2021 年 10 月末時点において、議長職が金融庁(以下、JFSA)に移された。

パスポートの進捗

2022 年 1 月、ニュージーランドの金融市場局(FMA)がニュージーランドを拠点とする規制 CIS(Collective Investment Scheme)をパスポートファンドとして登録した。これは ARFP 制度下で承認された最初のパスポートファンドである。また現在、全ての JC メンバーにおいて、ホストエコミーとしての参入申請を受け付ける準備が整っている。

個々の取組みとともに、JC は協力してパスポートに関する業界の認知度の向上に努めている。パスポートの公式ウェブサイト(<https://fundspassport.apec.org>)上では関心のあるファンドオペレーターに対して不可欠な情報と最新の進展を提供し続ける。

JC はまた、パスポート制度のレビューを開始する方法や適切なタイムラインについてのアイデアを検討した。さらに、JC は手続きや潜在的進展、サステナブルファイナンスにおける 2022 年の APEC の主要な優先事項の下での協力といった観点から、パスポート制度を発展させるための様々な方法について議論した。

次回会合

COVID-19 を巡る不確実性を考慮し、JC の次回会合は 2022 年上半期にバーチャル形式で開催される可能性が高い。然り乍ら、JC は状況を継続的に監視し、最適な会合の設定を検討することに合意した。

背景

オーストラリア、日本、ニュージーランド、韓国、タイが 2016 年 6 月に MoC(Memorandum of Cooperation)に参加し、これに基づき、パスポートの効果的な実施と運用を監督するために JC が設立された。

APEC 財務大臣会合を経て設立されたパスポートは、リテール投資家に対し、投資ファンドのクロスボーダーの販売を可能にし、投資家保護のための効果的な法規制を維持しつつ、より多くのファンドの選択肢を与えることで、投資家に対してより多くの利益をもたらすことを意図している。また、パスポートは、地域の金融市場及びファンド業界の能力、専門性そして国際競争力を強化することも目的としている。

(以 上)